

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、仲良く、楽しく」 地域との密接なつながりを大事にしながら、共に助け、仲良く楽しい笑顔あふれる利用者、家族が明るく和を育てる日常生活を送る	○ 地域密着に基づいたサービス提供を目指し、施設のかかげる理念を理解する事により、更に質の向上を図り、交流を深め支援をすすめる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は理念を共有し毎日の生活の中に反映させていける様、お互いに声を掛け合いながら協力している。	○ 全職員の理念に対する意識向上に努め、毎日のサービス提供に反映できる様に相互の理解を深めていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設が掲げる理念を基に利用者家族又は地域の方々と交流を深めながら和を大切にに取り組んでいく。	○ 利用者、地域との交流を密にし、パンフレット又は広報紙による施設の理念を広めていく。理念通じて信頼関係をより強く結ぶ。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣と挨拶を交わし、町内会行事にも積極的に参加し相互理解を深める為交流を図る又介護予防教室を通し、地域の認知症普及活動に勤めている。	○ 施設内の菜園、樹木等を活用して地域の方々に協力、指導をおおぎながら、町内会活動への積極的に参加し、お互いのコミュニケーションを作り上げる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営管理者は全職員に対し、評価の狙い活用法にたいする周知徹底を心がけており、様々な意見等を求めている。	○	全職員が評価に対する理解を深め、今後役に立てる様常に意見を出す等自発的取り組みの継続
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な状況下においての意見を述べると共に又、出された意見等に対し明確な対応が出来る様に話し合いを設けていきたい。	○	現場からの意見をサービス向上に反映させ、常に検討し合い、改善策の打ち出しを目指す。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	出来るだけ各担当者の方達に対し、運営や現場の実情を理解して頂く為に、様々な意見を述べられる体制を作り、サービスの質の向上に向けて職員の意識向上を図りたい。	○	事業所は、市町村担当推進会議以外にも、積極的に意見する機会を得られる様働きかけ、又連絡を密にする様継続していく。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	顧問弁護士の下、研修を聞きそれに基づき全職員間のディスカッションの場を設けている。	○	研修参加増加環境を目指し、又参加後討論し、全職員が内容を共有出来る様図り、理解を深めていく。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	顧問弁護士の下、虐待防止関連法について研修し、又虐待のサインを見逃さず介護に努める。	○	市町村及び関係機関との連携を積極的に図り、虐待についての知識理解を深めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人家族に対し、納得のいくまで十分な説明を行う。申し出があればいつでも対応できる様にする。	○	いつでも本人、家族、関係者などの要望、申し出に対応できる様継続。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人との密接なコミュニケーションを図り、その中より本人の意向を表せる様な機会を設け、反映されていく様にする。	○	事業所内に苦情受付窓口、外部苦情受付窓口を提示し、利用者が意見等申し出できる環境作りの徹底。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な広報紙等を発行し、家族の方へ利用者さんの日常的な事や様子等わかりやすい様に伝えていきたい。	○	広報以外にも、面会時又は必要に応じて電話等で細かな情報提供を行う。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのコミュニケーションを造り言いやすい環境を整える。又寄せられた意見等に対し、全職員が外部の話し合いを行える様にしていく。	○	事業所内に苦情受付窓口、外部受付窓口を提示し、家族が意見を申し出できる環境作りの徹底。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に対話の場を設け、全職員より意見提案を求め、より良い環境作りをしていく。	○	意見や提案が出しやすい環境、人間関係作りを目指す。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	全職員が各個人の状況共有する事により、様々な対応策に向けて意見交換出来る様に調整を図っていく。	○	緊急時にも対応できる様に体制作りを図る、又全職員が情報共有し、勤務調整に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在未入居の状態ではあるが、ボランティアの方々が来訪する時もあるので、入居後は全職員が利用者の中に入り、不安感を持たないように配慮する。	○	利用者と全職員が信頼関係を築き、担当変更時も引継ぎを密にする事により、利用者とのコミュニケーションを立ち切らないよう声かけを継続して行う。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修後、報告書を作成し、それに基づき全職員の知識・レベル向上に向けての施設内研修実施。	○	スーパーバイザーを設置し、全職員の技術面、メンタル面でのアドバイスをを行う。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設行事参加・見学・研修等を行い、ネットワーク作りや技術向上を図り、サービスの質の向上を図る。	○	施設、関係機関との連携を図り、お互いのコミュニケーションを深め情報交換し、サービスの向上、職員育成に反映させていく。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	相互関係を結び、相談を通しより良い職場環境作りの徹底。社会レクリエーションを通し意思疎通を図っている。	○	日常の勤務状況等様子観察のもと、相談に応じ又ストレス軽減を図るようにし、環境作りを目指す。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の健康状況把握、体力実績等考慮し、適切な配置。又全職員同士の向上心アップを図る為、勉強会を行っている。	○	各職員から援助、勤務内容等について意見を求め、処遇や勤務体制と照らし合わせて、今後の取り組み方に反映、意識向上を図る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問、本人・家族の意向の聞き取りを行い、それぞれの意見、考え等を把握する。	○ 定期的な話し合い、随時訴え相談等の受付をし、改善策の検討を図る。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、聴き取りによる適切な状況判断により、支援サービスが受けられる様、関係機関との連携を図っている。	○ 関係機関と連携を図り、適したサービスが受けられる様に働きかけをする。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族より情報提供して頂き、又それに対し全職員も親しみやすい雰囲気作りをしている。出来るだけ本人の意向を取り入れる工夫をしている。	○ 利用者のニーズに答えられる様に、検討の場を設け、不安を与えない為に職員の意見統一を図る。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方を人生の先輩、又家族の一員とし相互の信頼関係を結べる様、支援している。	○ コミュニケーションを取りながら、利用者の個性を引き出し、共に楽しく生活を送れるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者不在のため未記入。	○	家族との連携を密にし、利用者の情報提供を通じ、意思相通を図り職員の意思統一をすすめる。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者不在のため未記入。	○	利用者、家族のよりよい環境作りの為、面会や電話、手紙などを利用しながら近況報告の徹底継続。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居者不在のため未記入。	○	往来可能な限り、家族の協力を得ながら関係維持に努める。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者不在のため未記入。	○	トラブル発生しないように、状況判断継続。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の家族とは普段からコミュニケーションを図り、サービス終了後も電話連絡など取る様にする。		関係継続が出来るように、広報紙発行、相談等応じる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者不在のため未記入。	○ より多くのニーズに対処する為、職員の意向上、対処法について研修、勉強会を行う。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者不在のため未記入。	○ 変化による不穏状態の観察、早期発見に繋がるようにコミュニケーションを図る。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者不在のため未記入。	○ 個別に対する状況、個人の出来る事を視野に入れ、可能な限り有する力を把握し、活用して頂ける様支援する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を十分に考慮し、より適切なケアプラン作成を行う。	○ 本人、家族の意向をより理解する為、コミュニケーションなどで知り得た小さな変化、情報をケアプランに反映させて、より快適な生活を送れる様目指す。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	普段からの様子観察、コミュニケーションを基に小さな変化の早期発見に繋げ、すぐ計画変更出来る様、全職員関係者と連携をとる。	○ 定期的なケアプラン見直しを行うと共に、変化が見られる時は随時、関係者と連絡を取り合い対応策の検討を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が情報共有し、且つ利用者の様子観察を細かに記録し日常生活支援に反映させていきたい。	○	日常生活全般の様子観察、記録、記入の継続、疑問、問題点について改善策を見直し、いつでも対応できる様にする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人又家族とのコミュニケーションを通じて、できるだけ希望通りの対応ができる様、全職員の意思統一連携を図る。	○	施設外においてアクティビティ的要素を盛り込んだ関連施設機能を活かせる対策を行っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	常時、ボランティア活動がなされ、利用者の異変時等の対応も関係機関との協力連携がなされている。	○	ボランティア活動を通じ、安心して過ごせる様な雰囲気作りと、各機関との交流を活かし役立てる様、取り組んでいく。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者不在のため未記入。	○	今後も必要性に応じた協力施設のサービスが利用できる様、話し合い連携を図る。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者不在のため未記入。	○	可能な限りサービス利用対処する為、連絡を常にし随時対応できる様にする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人・家族の希望を基に、会社の特性を活かした医療機関、関係医との連携を大切にし、急変時にも家族や医師への素早い対応ができる。	○	現状の受診状況、体調等を把握し家族との連携を密にし適切な対応を心がける。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ専門医受診等できる様に連携を図り、又家族より相談にも適切な対応が出来る様に努める。	○	関係専門医より、全職員家族等に対し、認知症勉強会を開いていく。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日のバイタルチェックを基に状態観察を行い異常の早期発見に努め連携を図る。	○	高齢者が陥りやすい病気・症状について、随時勉強会を開いていく。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者に対し不安を抱かせない様にコミュニケーションを図り、関係者との情報交換や相談を密にする。	○	入院者・その家族関係者と定期的又は、状況による随時の話し合いによる早期退院に向けての連携を図りたい。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人又家族と相談し、適切な対応ができる様に関係者との連携を図り、又職員全員で共有できるようにしていく。	○	重度化ターミナルケアに向けて、本人や家族の意向を考慮し、各方面との情報提供交換し適した方法選択を考案していきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期には対応していない。	○	今後、入居者個人の状況に応じて対応して備えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者不在のため未記入。	○	日常生活の様子を観察し、伝達、報告を徹底する事により、小さな変化などに対応できる様支援をすすめていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者不在のため未記入。	○	個人情報保護法について理解を深め、おざりな対応にならない、それぞれの意識向上を図りたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者不在のため未記入。	○	本人が決定、納得できる様な説明を行い、適した対応法を職員が支援、援助に努めたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者不在のため未記入。	○	個人らしく自由に過ごせる時間等優慮し、快適な生活が送れる様支援又は、本人の自立心向上支援を図りたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者不在のため未記入。	○	外部ボランティアなどを通じ、心身リフレッシュが出来る様な環境作りをし、また職員、家族の方などが協力し、利用者が装いしやすいようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者不在のため未記入。	○	いつでもお手伝い等、職員、利用者のごみにゆけーションを十分に図り、自由に参加できる様に支援を勧めていきたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者不在のため未記入。	○	出来るだけ利用者の希望にそえる形にしたい。それぞれが楽しめる環境、雰囲気作りをすすめていきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者不在のため未記入。	○	日常生活内での排泄パターンをよく理解し、随時対応していきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者不在のため未記入。	○	定時外でも希望があれば対応していきたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者不在のため未記入。	○	必要以上の休息等で夜間時の睡眠の妨げにならない適切な対応を目指していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの個性や特技を活かせる環境作り、又お互いにコミュニケーションを通じて楽しめる様支援していきたい。	○	個人同士互いに楽しむ為にコミュニケーションやレクリエーション活動を通じて、張り合いや喜び、実りある生活を送れる様支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者不在のため未記入。	○	出納帳を作成する事により、金品の流れ、使用回数等を明確に本人、家族に明示出来る様にしていきたい。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者不在のため未記入。	○	敷地内にいつでも散策出来る様菜園を配置し、気分転換が図られる様にしていきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者不在のため未記入。	○	個人の希望を把握し、家族の協力のもと、外出支援をすすめていきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者不在のため未記入。		手紙、電話内容のプライバシー保護を十分配慮する。また本人依頼時も快く対応出来る様図りたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者不在のため未記入。		状況に応じた適切な対応をし、またいつでも来苑して下さる様、声がけをすすめていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修勉強会に基づき、身体拘束について全職員間で話し合いをし、利用者さんに最善な援助支援策を探る。	○	研修、勉強会を開き、全職員が身体拘束しないケアの大切さの認識を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者居室ドアの取っ手を取替え、鍵を使用しての開閉に対する不安を取り除く。	○	施錠しなくても安心して生活出来る様、職員が様子観察、また安全管理への意識向上を図っていききたい。ドアセンサーの設置。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜間利用者と共に行動し状況及び所在確認、全職員間連絡の徹底。	○	職員同士の安全確認の徹底、日常生活全般での声掛けを周知徹底。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員は利用者に対して危険物だという事を認識して頂く為、助言等を積極的にすすめる。	○	職員の物品に対する安全管理確認の行為の意識向上を図っていききたい。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止について各職員より意見を出し、疑問・問題について勉強会を行い技術向上に取り組んでいる。	○	定期的な訓練を行い、状況に応じた対処法を学び、事故防止委員会設置をしていききたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時・事故発生時対応マニュアル作成し、対応訓練している。	○	AED研修参加、また施設内においてAED設置し、使用法や人形を使っての定期訓練の実施。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に総合訓練を実施し、又全職員は避難誘導法の周知徹底。地域関係局との連携を図っている。	○	災害に備え、地域の方々との連携を図り、今後地域防災協力設立を目指す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族に起こりうるリスク・対処法なども説明し、全職員には対処法などのマニュアルの熟読、又技術の周知徹底を行う。	○	家族と日々コミュニケーションを図り、お互いに信頼関係を築き、些細な事でも職員が情報提示できる体制にする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者本人の体質・持病・体調を把握し、異変に気付いた場合速やかに関係機関に受診を行う。又常に様子観察をする。	○	利用者とのコミュニケーションを図り日々の生活の中で、体調変化など様子観察し、急変時には職員がすぐ対処出来る様にマニュアルを作成する。また医療機関等とも普段から連絡を密にしておく。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業専属薬剤師指導の下、薬の管理、服薬指導をして頂く。	○	職員は誤薬、誤飲に注意を払い、薬について薬剤師から指導を仰ぎ又、勉強会を開き情報を共有する。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士に定期的にメニューチェックをしてもらい、食物繊維を抱負に摂取出来る様なメニューを考え、水分補給、体操などを行うようにしていく。	○	利用者の運動量、水分量、食事量のチェックし、スムーズな排便を促す為の適切な支援をすすめていく。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の不衛生は全身の病気となることをふまえて、口腔内の衛生、主に毎食後の歯磨き・義歯の手入れ・うがいなどを施行する。	○	職員もオーラルケアについて勉強し、利用者ひとり一人に対して十分時間をとって、歯磨き義歯洗浄など行えるようにする。また歯科医と提携し訪問診察を行う。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者本人の嗜好を考慮し、食べやすい調理方法や量バランスなどに気をつける。	○	栄養士に定期的にメニューをチェックしてもらい次の献立に活用し食事、おやつ以外にも水分補給を忘れずに行い、食事量チェックシートに記入する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関する勉強会を開く。マニュアル作成、対処法訓練又各所対処別消毒薬の設置。	○	対処法、訓練の継続、周知徹底を行うと共に、利用者にも手洗い、手ふき、手指消毒などを行う様、働きかける様にする。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理の徹底、調理者の手洗い指導。食材の長期保存はしない。	○	冷蔵庫内の消毒や食材の長期保存など行わないようにする。また調理器具などの衛生管理を徹底して行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	車椅子利用者の為のスロープ作り、玄関の3枚戸を使用で入口を大きくとり、又風除室も広く設計しているので、開放感のある玄関の雰囲気作りを目指している。	○	出来るだけ家族の園長にある様な雰囲気作りをし、利用される都度なじめる様に職員の適切な対応を図るようにしていく。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フクロウの置物を中心に配置し、利用者が手で触れ合うことができる様に、又絵画を季節ごとに取替え四季を感じる様に心がけている。	○	日常生活を通じて利用者、家族に気付いた点などあげてもらい、職員自ら体験、検証し改善策を検討する。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いワンフロアの中で、目的別に3分割になっている為、各フロアで利用者さんが思い思い過ごせる様になっている。	○	利用者の方々が思い思いに過ごせるように常に、コミュニケーションを図りながら、利用者のニーズに答えられるように取組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者が安心して過ごせる様に愛用品・嗜好品の 持込みをして頂く。	○	利用者が心安らぐ部屋作りを目指し愛用品、嗜好 品などを持ち込んでもらい、なるべく前部屋に近 い雰囲気になる様に心がける。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	一日の生活の中で、3回湿度・気温チェックをし 利用者が快適に過ごせる様にする。又換気にあ たり24時間強制換気し、必要に応じてエアコン なども使用する。	○	室内乾燥に注意し適度な温度、湿度の保持に努 める。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	施設内バリアフリー多目的室、居室の床の色の違 い廊下手すりなど安全に生活出来るように配慮し ている。	○	身体状況変化、利用者のニーズに応じて必要と思 われる対処を目指す。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	各部屋・風呂・台所など利用者が混乱を起こしや すい箇所に標識を取り付けるなど行う。	○	利用者本人の状況、状態に応じて必要と思われる 対処を行う。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	敷地内に畑・花壇等設置しており、日々の生活 の中で栽培や手入れを行っている。	○	庭園、増築により利用者の利用頻度を高め、野 外内レクリエーション活動活性に努める。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者不在のため上記内容未記入。①事業所選任の薬剤師による服薬相談、薬剤管理 ②広大な畑で野菜などを育て収穫した喜びを感じ、心身ともにリフレッシュ出来る。 ③天然温泉を療養泉として活用 ④木をふんだんに使った居心地のいい空間演出 ⑤AEDの設置 ⑥多方面の協力体制の充実